

まぐりぶだより

رسالة من المغرب



2/2025

ラバス ハムドゥーラ
لا باسمحمدالله

شوको

日本の学校では、1年のまとめの時期になりましたね。みなさんも学力テストに向けて、各教科の復習をがんばったり、委員会の活動を下級生に引き継いだり、クラスや学年の友達と楽しい思い出をつくらしていると思います。モロッコの学校は9月に新しい学年が始まり、6月末で1年間が終わります。ですから、今はもうすぐ前期が終わるという時期です。日本と約半年ずれていることになりますね。

どうやって数える？

今回は、モロッコの「数の数え方」について紹介したいと思います。モロッコでは「ダリジャ（モロッコアラビア語）」と、「フランス語」による数え方を使っています。日本の数え方との違いを比べてみました。

	日本語	ダリジャ	フランス語
1～10	小さい数から順に数える	小さい数から順に数える	小さい数から順に数える
11～60	十の位、一の位、の順に数える 例：14「10と4」 45「40と5」	<u>一の位、十の位、の順</u> に数える 例：14「4と10」 45「5と40」	十の位、一の位、の順に数える が、 <u>11～16は特別な数え方</u> 、 17～は、日本と同じ
61～80	例：61「60と1」 78「70と8」	例：61「1と60」 78「8と70」	<u>60といくつ</u> 、で数える 例：61「60と1」 78「60と18」
80～100	例：81「80と1」 93「90と3」	例：81「1と80」 93「3と90」	<u>80といくつ</u> 、で数える 例：81「4×20、それと1」 93「4×20、それと13」

ダリジャの数え方は、わたしが以前住んでいたオーストリア（ドイツ語）でも同じでした。わたしは、フランス語の数え方がとても不思議だなと思いました。モロッコの人たちはダリジャの数え方も、フランス語の数え方も使いこなしていてすごいなと思います。みなさんはどう思いますか？

また、日本ではものの数に種類別の「単位（人、本、冊、個、匹など）」をつけますが、ダリジャやフランス語では使いません。ドイツ語では数字のあとに「マル」という言葉をつけて、個数を表します。世界にはいろいろな数え方があるとおもしろいですね。

それでは、今回のクイズです。次の数は、ダリジャでどの順（1）、どの考え方（2）で読むでしょうか。次の中から選んでください。

(1) 42.195 （フルマラソンの距離）

- ① 4→2→. →1→9→5
- ② 2→4→. →1→9→5
- ③ 2→4→. →1→5→9
- ④ 9→5→1→. →2→4
- ⑤ 5→9→1→. →4→2

(2) 10000 （一万）

- ① 1×10000
- ② 10×1000
- ③ 100×100
- ④ 1000×10
- ⑤ 10000×1

正解は次回のまぐりぶだよりで！



さて、前回の「おやつを食べ方クイズ」の答え合わせです。

これは、「ざくろ」という果物味のヨーグルトです。

日本でいうと、飲むヨーグルトのようにトロトロとしています。(→)

ラッシュの子どもたちは、おやつ時間にこれをどのように食べるのでしょうか???



正解は…

「底の角に歯で穴をあけて、チューチュー吸って飲む!」です。



左の写真は、実際にある女の子が飲んでいました。

ふたは開けていませんね。

飲み終わると、縦向きにつぶします。

よく見ると、底は星形になっていて歯でかじりやすいようです。

【解説】

まぐりぶだより12月号でも紹介したように、モロッコの学校には掃除の時間はありません。また、自分の出したごみを、ごみ箱に捨てる習慣もあまりないようです。

そのため、おやつ時間のあと、このごみもたくさん転がっています。拾って歩くと、「パックのふたがあいていない」「上下にぺちゃんこにつぶれている」ということに気づきました。

そこで、子どもたちの様子を観察すると、どの子もこのように飲んでいるのです。そういえば、わたしは小学生のころ、ヤクルトをこうやって飲んでいました。みなさんのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも経験があるかも…?それにしても、なぜこんな食べ方(飲み方)をするのでしょうか。理由はよくわかりませんが、たまに、このおやつの中身を服にべっちょりとつけた子や、地面にドバっとこぼれた様子を見ることがあります。とてもとろとろとしていることに加えて、遊びながら飲むため、「ふたを開けて飲むと、こぼしやすい」という理由も、もしかしたらあるのかもしれません。

ところで、先生たちにも「おやつ時間(スティラハ)」はあるのでしょうか。

前回のまぐりぶだよりで紹介したように、スティラハのときに、先生が子どもたちを注意することはありません。先生同士でおしゃべりをして過ごしています。

そして、なんと先生たちの中には、授業中におやつを食べる人もめずらしくありません。子どもたちが問題を解いている間、お菓子やパンを出して食べるのです。はじめは、「!!!」とおどろきましたが、子どもたちにとっては「普通」のことのようです。たまに、わたしももらって食べることがあります。

(実際に授業中にもらって食べたお菓子↓)

どうですか?…先生が授業中にお菓子を取り出して食べ始めたら…日本の学校で想像したら、やはりおどろきますよね。これも文化や価値観の違いなのですね。



モロッコの新年 3回ある???



以前、まぐりぶだよりで紹介したように、モロッコは日本のようにクリスマスやお正月を祝う習慣がありません。そのため、12月31日まで学校の授業がいつも通りあり、1月1日だけ休んで、2日からまた日常が始まりました。日本だと、年末には「よいお年を」、年始には「今年もよろしく」などと言ったりしますが、モロッコではそのようなあいさつありませんでした。

しかし、モロッコには1月1日以外にも「新年」とする日が、あと2回あるそうです。

1つは、1月14日。これは、モロッコの先住民族とされるベルベル人の新年を祝う「アマジク元日」です。(アマジクとは、ベルベル人の別名)

今年は1月14日でベルベルの2975年になったそうです。この週、6年生の授業では、アマジクの文化(服装、食事、大切にしているものなど)についてグループで調べたことを発表していました。



実際にアマジク元日当日はどんな様子だったかということ、いつもとかわらない祝日でした。11月の祝日では町中に国旗が飾られましたが、今回はそれもなく、穏やかな休日と感じました。

もう1つは、6月27日。これは、ヒジュラ暦というイスラム教の数え方で、今は1446年。年によって新年の日付が変わり、今年は6月27日で1447年になるそうです。モロッコの学校では、授業のときに西暦(2025年)と、このヒジュラ暦の日付を両方書きます。ヒジュラ暦は月の動きをもとにした暦のため、1年に11日ずつずれていきます。6年生は理科で月の見え方を勉強したのでしょうか。また、社会でも勉強したと思いますが、日本も150年くらい前までは月の動きをもとにした暦が使われていましたね。

1月1日と、1月14日と、6月27日。それぞれモロッコでは新年として祝日になっています。世界にはほかにも「新年」をもつ国があるかも…。機会があれば調べてみるとおもしろいかもしれません。

